

# 伊勢国府跡 4

2002年3月  
鈴鹿市教育委員会



6AHD-C・D-1区全景(南から)



6AHD-C・D-1区全景(北西から)



6AEB-A区全景（北東から）



6AAEB-B区全景（北から）

## 例 言

1. 本書は、国庫・県費補助事業として鈴鹿市教育委員会が2001（平成13）年度に実施した長者屋敷遺跡ほか発掘調査事業のうち伊勢国府跡（長者屋敷遺跡・第13次、第14次）の調査概要をまとめたものである。

2. 発掘調査は以下の体制で実施した。

調査主体	鈴鹿市教育委員会（教育長 山下 健）	
調査指導	川越俊一（奈良文化財研究所） 高瀬要一（奈良文化財研究所） 八賀 晋（三重大学名誉教授） 渡辺 寛（皇學館大学教授） 文化庁文化財保護部記念物課 三重県教育委員会スポーツ・生涯学習課文化財保護室 三重県埋蔵文化財文化財センター	
調査担当	鈴鹿市考古博物館	
組織及び構成	参事兼鈴鹿市考古博物館長	林 銀哉
	副参事兼埋蔵文化財係長	中森成行
	埋蔵文化財係指導主事	北条正剛
	副主幹	藤原秀樹
	副主査	鈴木孝幸
	事務吏員	河村みゆき
	囑託	吉田真由美 林 和範

3. 調査を実施した箇所及び面積は以下のとおりである。

Tab. 1 調査区一覧

地区記号	所在地	面積㎡
6 AHD-A	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1240番3	147.0㎡
6 AHD-B	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1237番	484.2㎡
6 AHD-C	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1240番1, 2	40.9㎡
6 AHD-D	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1241番	42.1㎡
6 AEB-A-B	三重県鈴鹿市広瀬町字仲土居1282番1	246.0㎡

4. 調査期間は第13次調査は2001年9月20日から2002年2月14日、第14次調査は2002年1月6日から11日までである。

5. 現地調査は前記係員のうち主に藤原・吉田・林が担当した。

6. 本書の編集・執筆は藤原の指導のもと、吉田が担当した。遺物の実測は下記屋内整理員のうち別府・水谷が行い、遺物の写真撮影は新田剛（鈴鹿市考古博物館学芸員）が行った。

7. 調査参加者は以下のとおりである。

〔現地調査〕 江藤栄生・江藤琢子・江藤経子・小河茂・小河清角・鈴木義孝・水野ひさ子・水野豊・森明

〔屋内整理・事務〕 片岡貴美子・神田楢・杉本恭子・別府智子・水谷由起子・川北雅

8. Plate. 1 では国土地理院発行1:50,000四日市・亀山の一部を使用した。

9. 今回検出した遺構は以下のとおりである。

Tab. 2 遺構一覧

溝：SD	土坑：SK	建物：SB	柱穴：P
117, 118, 121, 122, 123, 129, 130, 132	119, 124, 127	131, 143	134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142

10. 座標は国土座標第VI系を用いた。図中の方位は座標北を示す。

11. 調査区は必要に応じ、3mグリッドに分割し、北西のX・Y座標からド3桁を組み合わせてグリッド名とした。

例) X=-123812・Y=45651の場合、812・651

12. 本調査にかかる遺物・図面・写真は全て鈴鹿市考古博物館が保管している。

調査及び報告書刊行にあたっては上記指導委員の先生方の他に地権者ならびに地元各位をはじめ下記の方々のお世話になりました。記して感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

鈴木末義・辻あき・谷川正夫・広瀬町自治会・西富田町自治会・中富田町の山自治会・中富田町の町自治会・石毛彩子・宇河雅之・尾野善裕・黒崎直・坂井秀弥・杉谷政樹・辻公則・平沢毅・水橋公恵・村山邦彦・山澤義貴・山中章・山中敏史・吉水康夫

## 本文目次

I. はじめに	1	III. まとめ	4
II. 遺構と遺物	2	英文目次・要旨	

## 挿図目次

Fig. 1 長塚地区建物配置図案 (1:500)	5	Fig. 3 軒丸瓦の型式 (1:8)	7
Fig. 2 方格地割想定図 (1:5,000)	6	Fig. 4 軒平瓦の型式 (1:8)	8

## 表目次

Tab. 1 調査区一覧	例言	Tab. 4 軒瓦一覧	9
Tab. 2 遺構一覧	例言	Tab. 5 報告書抄録	32
Tab. 3 調査履歴	1		

## 図版目次

Plate 1 周辺の遺跡 (1:100,000)	11	Plate 11 6AHD区出土遺物 (1:4)	24
Plate 2 調査区位置図 (1:5,000)	12	Plate 12 出土文字瓦 (1:4)	25
Plate 3 調査区位置図 (1:1,000)	13	Plate 13 出土文字瓦 (1:4)	26
Plate 4 6AHD区遺構配置図 (1:400)	15	Plate 14 出土文字瓦 (1:4)	27
Plate 5 6AHD-A区平面図 (1:100)	17	6AEB-A区出土丸瓦 (1:4)	
溝SD117・SD118断面図 (1:50)		Plate 15 6AEB-A区出土平瓦 (1:4)	28
6AHD-C区SD118瓦出土状況 (1:20)		Plate 16 政庁(北西から)/6AHD-A区SD117(南東から) /6AHD-A区SD118 (北から) /6AHD-C区SD118	
Plate 6 6AHD-D-2区平面図 (1:100)	18	遺物出土状況 (西から) /6AHD-C区SD117サブ	
溝SD121断面図 (1:50)		トレレンチ断面 (東から) /6AHD-C区SK119	
土坑SK119平面図 (1:100)		(東から) /6AHD-C区SD117 (北東から) /	
土坑SK119・SK124断面図 (1:50)		6AHD-C区SD118瓦出土状況 (東から)	29
Plate 7 6AHD-C・D-1区平面図 (1:100)	19	Plate 17 6AHD-D-1区 (南西から) /6AHD-D-2区 (西	
溝SD117・SD118・SD121・SD122・SD123		から) /6AHD-D-1区SD121断面 (東から)	
土坑SK127, C区北壁断面図 (1:50)		/6AHD-D-1区SD123断面 (東から) /6AEB-B	
Plate 8 6AEB区遺構配置図 (1:200)	21	区検出状況 (北から) /6AEB-B区SD129断面	
Plate 9 6AEB-A区平面図 (1:100)	22	(南から) /指導委員会/現地説明会	30
東溝, 西溝, 北溝断面図 (1:50)		Plate 18 出土遺物	31
Plate 10 6AEB-B区平面図 (1:100)	23		
溝SD129・SD130断面図 (1:50)			

## カラー図版目次

1. 6AHD-C・D-1区全景 (南から)	巻頭	2. 6AEB-A区全景 (北東から)	巻頭
6AHD-C・D-1区全景 (北西から)		6AEB-B区全景 (北から)	

# I. はじめに

長者屋敷遺跡は、鈴鹿川の支流安楽川左岸の標高約50mの段丘上に位置し、瓦などの散布から知られる遺跡の範囲はおおよそ東西600m、南北800mである。

鈴鹿市教育委員会による長者屋敷遺跡の調査は平成4年より着手し、今年度で10年目を迎えた。平成4年度の調査は、1957年京都大学の藤原謙二郎博士らによって調査が行われた南野地区や瓦が密に分布する荒子及び長塚地区で実施した。南野地区の礎石建物は桁行8間以上であることが確認され、長塚地区では礎敷遺構が検出された。平成5年度の調査では政庁の確認を行い、当遺跡が8世紀後半の伊勢国府跡であることをつきとめた。以降平成7年度まで政庁域の範囲確認を行い、瓦葺礎石建物からなる主要殿舎の構造と政庁域の東西規模が明らかになる一方、基壇化粧の欠如も注目された。正殿を中心に後殿、東西脇殿が軒廊で結ばれ、築地塀で圍繞される建物配置は近江国庁に極めて類似し、両者の詳細な比較も試みられている(辻公則1996)。

平成8年度は政庁域背後に広がる官衙群の範囲確認に移行し、政庁の北東250mに位置する南野地区において礎石建物の基礎などを確認した。平成9・10年度

は政庁北北西250mに位置する長塚地区において倒壊瓦や瓦葺礎石建物の基礎を検出した。その間、政庁南門付近や遺跡北西部において緊急調査による資料の蓄積も進んでいる。三重県埋蔵文化財センターによる緊急調査では、20条余りの溝をもとに一辺120mを基本とした方格地割が想定された(宇河雅之1996)。

平成11年度の調査では政庁の南門の発見により政庁の範囲がほぼ明らかとなり、さらに政庁の西隣において新たな建物の検出を見た。平成12年度の調査では政庁西隣で政庁とほぼ同規模の西院とも呼べる区画を確認した。さらに瓦などの散布が稀薄である荒子地区において掘立柱建物、竪穴住居が確認された。

以上の調査成果をもとに2002年3月、政庁周辺の矢下・荒子地区、南野地区、長塚地区の3地区が国史跡に指定された。(Plate 2)

今年度の13次調査区は瓦などの遺物の散布が稀薄な地区である。しかし、昨年、遺物の散布が稀薄である荒子地区において遺構が確認されたことから今回も調査区を設けた。平成9・10年度に調査をした長塚地区の南側の地区あたり、この地区には方格地割の区画溝がかかることが想定されている。

Tab.3 調査履歴

回数	調査年度	調査区記号	所在地	調査期間	面積㎡	調査原因	概要
プレ1次	1957	A地点 B地点	広瀬町字南野 広瀬町字矢下			学術	礎石建物 基礎
1次	1992	長塚1 南野1 荒子1	広瀬町字長塚1247, 1248 広瀬町字南野971 広瀬町字荒子991	921110~930729	110 115 110	学術	礎敷遺構 礎石建物 瓦葺・溝
2次	1993	6AH-F 6AJA-A 6AJA-A-2 6AJA-A-3 6AJA-D 6A-C-A	広瀬町字中起1226 広瀬町字矢下1134 広瀬町字矢下1134 広瀬町字矢下1137 広瀬町字矢下1140 広瀬町字矢下1141	931129~940228	38 62 33 18 32 55	学術	政庁西院溝・軒廊 政庁後殿 政庁東隅礎 政庁東内溝・東外溝 政庁西院溝・正殿・西軒廊
3次	1994	6AJA-A 6AJA-J	広瀬町字矢下1132, 1133 広瀬町字矢下1131	941006~941227	750	学術	政庁西院溝・西内溝・西外溝
3-2次	1994	築地塀区	広瀬町字仲土堀、亀山市築地塀野町字仲土堀	940601~940817	2700	市緊急	溝
4次	1995	6AJA-A-5 6AJA-A-6 6AH-B	広瀬町字矢下1132, 1133 広瀬町字荒子1135 広瀬町字仲起1227-1	950920~951219	254	学術	政庁西内溝・西院溝 政庁北外溝
4-2次	1995	築地塀区	広瀬町字仲土堀、亀山市築地塀野町字仲土堀	950405~950713	1600	市緊急	溝
5次	1996		広瀬町丸内	960620~960716	133	市緊急	竪穴住居・溝
6次	1996		広瀬町字天下	960625~960719	288	市緊急	溝
7次	1996	6AF-A	広瀬町字南野972, 972-1, 972-2, 973	961001~970121	580	学術	掘立柱建物・礎石建物・溝
8次	1997	6AF-B	広瀬町字長塚1279-2	971016~980270	632	学術	宇城瓦・礎石建物・溝
9次	1997	A地区 B地区 C地区	広瀬町字矢下 広瀬町字矢下 広瀬町字仲起	980223~980320	21 26 5	市緊急	政庁南辺部 政庁西脇殿 溝
10次	1998	6AF-B	広瀬町字長塚1279-3, 1279-5	980901~981228	1014	学術	礎石建物・溝・土坑
11次	1999	6AJA-H 6AJA-FG 6AJO-A 6AJO-D 6AH-C	広瀬町字矢下1176 広瀬町字矢下1175, 1175-1 広瀬町字矢下1093 広瀬町字矢下1130 広瀬町字中起1226	990901~000131	168.4 91.9 332.8 250.3	学術	溝 遺構なし 溝・礎石建物 南門
12次	2000	6AH-C 6AH-E 6AH-D 6AH-D	広瀬町字中起1229-1 広瀬町字荒子1018-1, 1020-1 広瀬町字荒子1017 広瀬町字荒子1016 広瀬町字荒子1013-1	001001~010311	207.9 138 259 95.1 155.8	学術	遺構なし 竪穴住居・溝 掘立柱建物 礎石建物 掘立柱建物・溝
13次	2001	6AH-AB 6AH-C 6AH-D	広瀬町字中起1240-3, 1237 広瀬町字中起1240-1, 2 広瀬町字中起1241	010820~020214	147 484.2 83	学術	溝・土坑 溝・土坑 溝・土坑
14次	2001	6AE-AB	広瀬町字仲土堀1282-1	020106~020111	246	市緊急	礎石建物・溝
合計					11542.2		

## II. 遺構と遺物

### 1. 基本層序

基本層序は以下の通りである

I層：表土・耕作土

II層：クロボク土

III層：漸移層

IV層：褐色砂質シルト層、いわゆる地山

V層：黄褐色砂質シルト層

VI層：砂礫混じり黄褐色砂質シルト層

II層はほとんど残存しておらず、遺構の検出はIII層またはIV層上面において実施した。

6AHD-A B区の攪乱はV層ないしVI層におよぶ。SD117・SD118、SD121、SD123、SK119、SD129はVI層まで掘り込まれている。

### 2. 中起地区 (6AHD区) (Plate5)

A B区では、南北 (トレンチA)、東西 (トレンチB) に幅1mのトレンチを設け、遺構の広がりを探したが、過去の耕作によってほぼ全体が攪乱を受けていた。かろうじて調査区北辺で平行する2条の東西溝SD117・SD118を検出した。A区で確認された平行する2条の東西溝の続きを確認するためにC区を設け、調査区北部でその続きを検出した。しかしSD117・SD118は調査区半ばで途切れてしまった。そこで溝の続きの有無を確認するためにD-1区を設けた。その結果、SD121、SD123を検出した。さらにSD121・SD123がどのように続いていくかを確認するため、D-2区を設け、SD121の続きを確認した。

SD117・SD118についてはA区では完掘し、C区では端部から3m程を完掘し、2箇所サブトレンチを設けた。その他は0.1m前後掘削したのみにとどめた。SD121・SD123は調査区壁際にサブトレンチを設け、断面観察を行った。

溝 SD117 A区では過去の耕作によって著しく攪乱されている中、深さ0.9m掘削したところ、溝SD117を検出した。周辺を拡張したが、攪乱が著しく、溝が確認できたのは2.6mだけであった。検出面での幅は1.4~1.6m、深さは0.1mを測る。C区では調査区北辺にかかるため、一部拡張して溝の幅を確認した。検出面での幅は2.1m、深さは0.4~0.6mを測る。検出面において溝の南辺に沿って黄褐色の筋状の層が観察され、断ち割ったところ、南から流れ込む褐色もしくは黄褐色がかった土層が確認された。溝は調査区半ばで途切れ、延長約30mを測る。その端部から約3mの範囲に

は直径10~15cm前後の礫と瓦片が中層からまとまって出土した。

溝 SD118 A区トレンチAにおいてかすかな痕跡を確認したため、念のため4m東にトレンチDを設けたところ、SD117より約4mほど南の地点で検出した。検出面での幅は1.5~1.7m、深さ0.3mを測る。C区では検出面での幅は1.4~1.6m、深さは0.6mを測る。SD117程明瞭ではないが、溝の北辺から流れ込む褐色の土層が見られる。溝SD117とほぼ同じ位置で途切れ、延長約32mを測る。その端部から3~4mの範囲には、瓦が上層から中層にかけて厚く堆積して出土した。(Plate5) SD117とSD118の距離は内法で3.4~3.7m、芯々間で5.4m (18尺) を測る。

溝 SD121 D-1区では検出面での幅は1.2m、深さ0.7mを測る。D-2区で検出された溝はこの続きにあたり、検出面での幅は1.6~1.8m、深さは0.5mを測る。わずかに北に振りながらこの地点で再び途切れ、延長約50mを測る。

溝 SD123 調査区北辺にかかるため、正確な幅は不明であるが、幅1.5m以上、深さ0.5mを測る。南から流れ込む褐色もしくは黄褐色がかった土層が見られる。上層には瓦、礫が多く含まれる。SD121とSD123の距離は内法で3.9mを測る。

SD117・SD118、SD121・SD123の方位はいずれもおおよそN89°Eを示し、長塚地区の建物群の主軸と直交する。

土坑 SK119 (Plate7) トレンチIで、すり鉢状に掘り込まれた土坑SK119を検出した。検出面での最大幅は6m、深さ0.75mを測る。この土坑からは瓦片が出土し、中層半ばあたりからは中世の山茶碗も出土している。

溝 SD122 C区で検出され、SD117、SD118の間を通る。近世以降の地境の溝と考えられる。

土坑 SK124 SD118のすぐ西側で4.2m×2.1mの東西に長い方形の土坑を検出した。東西南北に断ち割り、断面の観察だけにとどめた。SD117の西側、調査区北西隅でSK124のように明確な形状をしていないが、同様な掘り込みが見られる。基礎地形の痕跡であろうか。SK124の南側には足場穴と考えられるピットが検出された。

土坑 SK127 2.3×2.1mの不整形形状の土坑。SD121を切るように掘り込まれている。瓦が少量出土。

Pit134~142 直径0.2~0.3m前後の足場穴と思われる小柱穴である。溝が途切れるところで「ニ」字状に並ぶ。

**土師器壺(1)** C区SD118の調査区東壁に設けたサブトレンチ下層より出土。推定口径263mm, 器高265mm。体部外面は縦方向のハケ, 底部はケズリによる調整。体部内面は横方向にハケによる調整。

**丸瓦(2)** C区SD118出土。幅176mm, 胴部, 玉縁部ともに短軸方向に調整が見られる。

**平瓦(3)** C区SD118出土。長さ356mm, 厚さ23mm。広端・狭端部の区別がはっきりしない。側縁は面取りをし, 凹面は横方向の調整が一部にみられる。凸面には縄目叩き調整の他, 「T」字状の工具痕が見られる。

**須恵器蓋(4)** D-1区SD123上層から出土。

**須恵器(5)** C区SD117上層出土。平瓶の頸部か。外面に丁寧なケズリ調整を施す。

**須恵器(6)** D-2区SD121上層出土。瓶頸の底部。胎土は粗い。

**軒丸瓦(7)** A区SD117出土。IA8型式の重圓文。

**軒丸瓦(8)** C区SD118下層出土。IA8型式か。

**軒平瓦(9)** A区SD117出土。わずかししか残存していないがIA2型式の重廓文と思われる。須恵質。

**文字瓦(Plate14, 15)** C区SD117から不明1点(48), C区SD118から「上」2点(29, 30), 不明2点(40, 46)出土している。「上」2点は丸瓦に押印され, その他は平瓦である。

### 3. 仲土居地区(6AEB区)(Plate9)

平成13年12月27日, 13次調査中に仲土居地区において重機による天地返しを確認した。平成14年1月5日実施の試掘調査により遺構が確認されたA・Bの2地区について緊急に調査を実施した。

**A区 建物 SB131(Plate10)** 検出時に瓦の散布が著しく見られたが, これは過去の天地返しの際に瓦が重機により埋め込まれていたものと思われる。しかし, 慎重に掘乱土を除去したところ「コ」字状の溝が残存していることが確認できた。この溝は, 瓦が集中して出土したことから瓦葺き礎石建建物(SB131)の基礎の外周溝であると考えられる。建物基礎の北辺はほぼ15m(50尺)を測る。対応する南辺は調査区外に及ぶため, 東西棟か南北棟かは明らかにできなかった。北辺溝は幅が両端で0.6m, 中央部で0.8mと広がる。深さは検出面から0.2~0.6mと3~4mごとに深さが変化し段状をなしており, これは作業単位と対応するものと見られる。東辺溝は幅0.8m, 検出面からの深さ0.4mを測る。西辺溝は他とは異なり幅2.2mと広くなっており, 深さは検出面から0.6mを測る。溝内埋土は黒色土で, 東辺溝中央部と西辺溝から比較的最も

まって瓦が出土している。

**B区(Plate11)** 南北方向に走る溝2条が, 22~23mにわたり検出された。

**溝 SD129** 断面が逆台形で, 検出面での最小幅は2.0m, 最大幅は2.6m, 深さは検出面から0.6mを測る。方位は, N1°Wを示し, 政庁とほぼ同じ方位をとる。底面は平らではなく長楕円形の上坑(穴)が連なる状況を示し, 掘削の際の作業単位を表すものと考えられる。埋土は黒色土であるが, わずかに黄色がかかった土が西側から流れ込む状況が見られ, SD130との間に土塁が存在した可能性が考えられる。出土遺物は少量の瓦(文字瓦1点含む)のみである。

**溝 SD130** 断面が箱状で検出面での幅0.5m, 深さ0.4mを測る。方位はSD129と平行する。SD129とSD130の間の距離は3.2~3.6mを測り, おそらく3m(10尺)幅で掘られたと思われる。埋土は同じく黒色土で, 出土遺物は少量の瓦片である。

**平瓦(52)** SB131西溝埋土出土。長さ378mm, 厚さ21mm。側縁は面取り調整され, 凹面は広・狭端に浅い横方向の調整が見られる以外は未調整のため糸切り痕, 布目痕がみられる。凸面は縄目叩き調整されるが, 叩きが弱いせいか糸切り痕が確認できる。

**丸瓦(51)** SB131北溝検出時に出土。長さ391mm。凸面は胴部, 玉縁部ともに短軸方向に調整される。

**文字瓦(Plate13, 14, 15)** A区SB131から「人」11点(Plate13, 陽刻9点, 陰刻2点), 「フ」3点(23, 24, 25), 「上」3点(26, 27, 28), 「羊?」(陰刻)2点(49, 50), 「守」2点(34, 35), 「ナ」2点(32, 33), その他, 文字の判読が不能なもの, 文字部分が失われているものなど15点, B区SD129から「人」1点(12), 計39点(平瓦33点, 丸瓦11点)出土している。

6AHD区出土の「上」と6AEB区出土の「上」では字体が異なり, 「人」も陽刻で3種類の字体が確認された(陰刻は1種)。

Plate13-24, 25は同印で印面に転写された布目が見られる。木製印ではなく, 陶製印が考えられ, 印面がわずかにカーブを描いており, 平瓦を利用し, 凹面に文字を刻んで作成した印ではないだろうか。



### Ⅲ. まとめ

#### 1. 門

6 AHD区で確認された平行する2条の東西溝は、それぞれ溝に挟まれた部分から溝の中へと流れ込む褐色土もしくは黄褐色土の層が埋土に見られることから、築地塀や土塁などの区画施設の内外に設けられた溝と考えられる。また、この築地塀ないし土塁に伴う溝は途中約12mにわたって途切れており、ここには何らかの出入り口があったと考えられる。柱穴が無く、基礎地成形しき痕跡が見られること、足場穴と思われるピットや溝に落ち込む瓦などから、瓦葺きで礎石建ちの門が存在した可能性が高い。礎石や礎石を据えた痕跡などは残っていないが、溝の途切れる幅が約12mであること、政庁南門の復元案から東西9m、南北5.4mの規模の3間(中央12尺、脇9尺)×2間(9尺)の八脚門を想定することが可能であろう。(1)

今回の調査で確認された築地塀ないし土塁は8次(平成9年度)、10次(平成10年度)の調査で確認された長塚地区の瓦葺礎石建物群を囲む施設と考えた。しかし、D-2区において溝が途切れてしまったため、最終的な確認は出来なかった。また、推定される門も長塚地区南側の別区画の北門とするには大きすぎる。区画の南側にはほとんど遺構が見られないこと、長塚地区の建物群の方位と同じであることから長塚地区の建物群を囲む施設で、その南門に当たる可能性が高いと考えている。

今回復元された門の主軸を長塚地区の主軸として考えると、東西規模7間と考えてきたSB47・SB44・SB40は東西5間の規模と見直す必要が生じてきた。

#### 2. 方格地割

平成6・7年三重県埋蔵文化財センターにより長者屋敷遺跡の北西、仲土居地区で調査が行われ、120m四方を基本単位とする方格地割の存在が指摘されている(宇河雅之1996, 1997)。

今回の調査で確認された門の中心からD-2区で溝の途切れる箇所まで約60mを測り、長塚地区の区画はおよそ120m四方の院を形成していたと考えられ、一応の成果と一致する。方格状に建物群を配置する基本計画があったことは十分考えられる。

しかし、6 AHD区で検出された平行する2条の溝より南には街路を想定できる遺構はみられず、当初考えられたような広範囲にわたる整然とした街路が全体に施工されたとするには疑わしい。

また、6 AEB区で検出された2条の溝の位置も、過去の調査から想定されている伊勢国府跡の一边120mの地割と一致する。これらの遺構も南野地区・長塚地区と同様に、土塁または築地による方形区画のなかに礎石建ち瓦葺き建物が計画的に配置される官衙ブロックの一部を構成しているものと考えられる。

宇河氏は政庁を中心に東に2ブロック、西に3ブロックの地割を想定しているが、6 AEB区の試掘調査により、西側に対応する区画施設や建物が存在しないことが確認された。6 AEB区で確認された2条の溝はブロックの西限を示すものと思われる。

また、方格地割は政庁と異なる方位で施工されたと指摘しているが、これは磁北を利用してしたことによる混乱で、今回の調査の成果を見ても政庁とほぼ同じ方位で施工されていることが確認できた。

最後に、伊勢国府跡の国史跡指定にあたり、地権者の方をはじめ、地元関係者の御協力・御尽力を賜ったことを厚く御礼申し上げる次第である。

【註】(1)山中敏史先生のご教示による。

#### 【参考文献】

- 宇河雅之1996『長者屋敷遺跡』『長者屋敷遺跡・築地塀・中冨村西浦遺跡』三重県埋蔵文化財センター
- 宇河雅之1997『伊勢国府の方格地割』『研究紀要第6号』三重県埋蔵文化財センター
- 辻公則1996『国府政庁の規模性～近江国・伊勢国について～』『鈴鹿市埋蔵文化財年報』鈴鹿市教育委員会
- 新田剛1999『伊勢国府跡』鈴鹿市教育委員会
- 新田剛2000『伊勢国府跡2』鈴鹿市教育委員会
- 新田剛2001『伊勢国府跡3』鈴鹿市教育委員会
- 山中敏史1994『古代地方官衙遺跡の研究』論書房
- 山本保志1995『長者屋敷遺跡(伊勢国府跡)第3次調査』『伊勢国分寺・国府跡2』鈴鹿市教育委員会

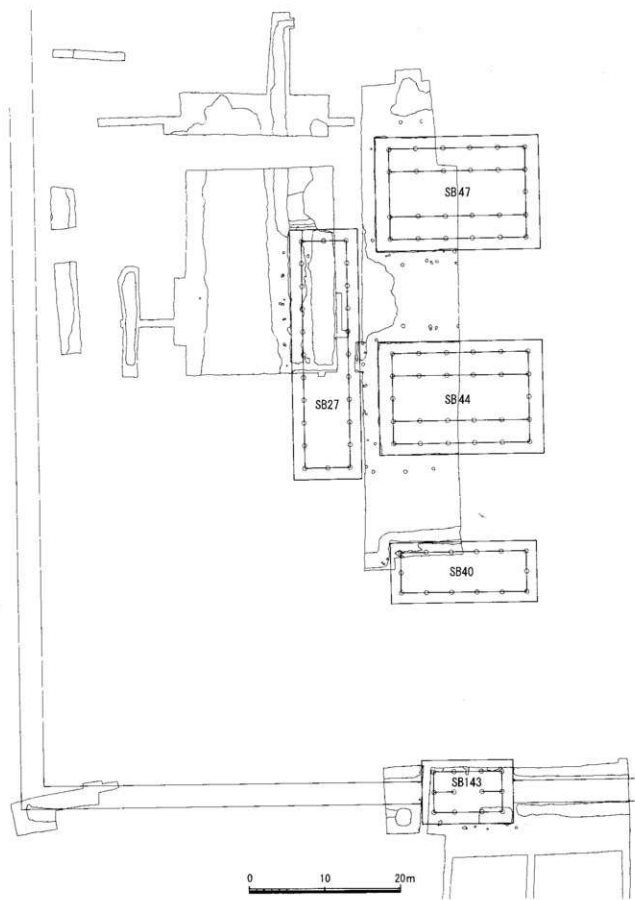
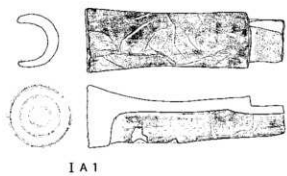


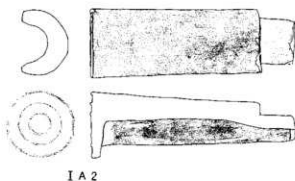
Fig. 1 長塚地区建物配置図案(1:500)



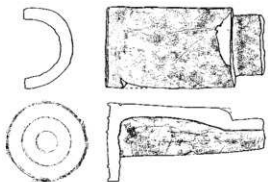
Fig. 2 方格地割想定図(1:5,000)



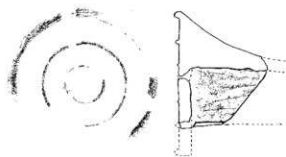
IA1



IA2



IA3



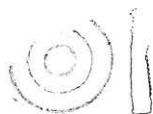
IA4



IA5



IA6



IA7



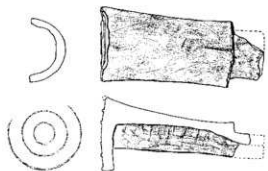
IA8



IB1



IC1



IA9



鈴鹿郡関町

0 30cm

Fig. 3 軒丸瓦の型式(1:8)

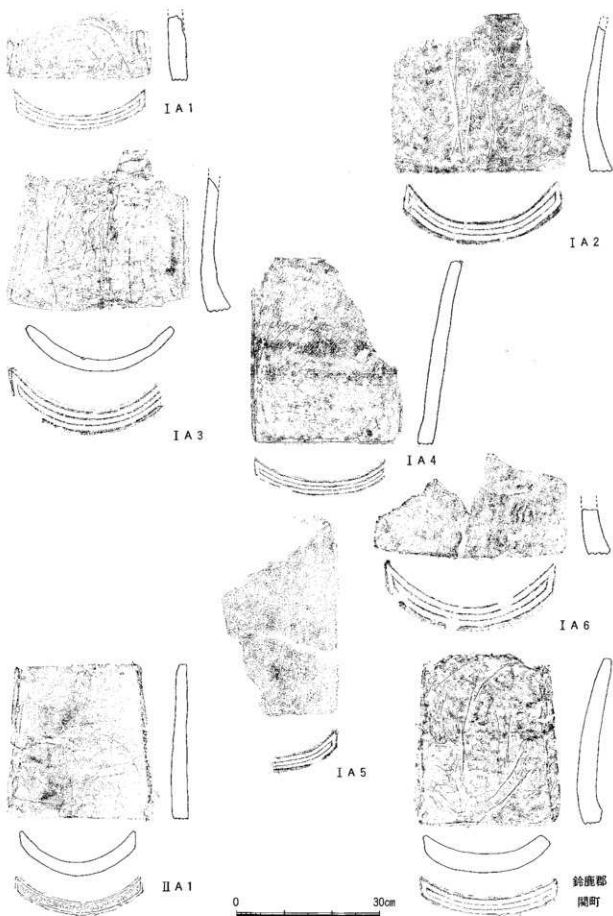


Fig. 4 軒平瓦の型式(1:8)

Tab. 4 軒瓦一覽

軒瓦五 型式名	法 量 mm						出土点数				佛寺 尼寺	八野	特徴など	
	瓦当径	瓦当厚	第1圈径	第2圈径	第3圈径	第4圈径	政庁	長塚	南野	西院				他
I A 1	129	50	114	77	37	—	35	4	0	0			1	三重圈。瓦当径では最小、瓦当部はより厚い。胴部は外反する。色調は淡褐色を呈するものが多い。
I A 2	140	29	127	82	39	—	41	9	0	0	5	1	1	三重圈。胴部は肉厚。淡黄灰色を呈するものが多い。軟質。
I A 3	167	30	153	98	40	—	11	1	0	1				三重圈。灰色を呈する。須恵質で硬質のものが多い。
I A 4	296	23	不明	不明	69	—	1	0	0	0				三重圈。瓦当径では最大。胴部は反る。淡黄褐色を呈し、軟質。素材粘土の調整痕が残る。
I A 5	180	31	不明	104	46	—	0	2	0	0				三重圈。暗灰色を呈し、軟質。胴部は外反するらしい。
I A 6	147	37	不明	78	31	—	0	1	0	0				三重圈。淡褐色を呈する。圈縁が太い。瓦当径や圈縁のバランスはI A 2に類似する。
I A 7	218	不明	不明	127	56	—	0	0	1	0				三重圈。淡灰色を呈し、軟質。瓦当径はI A 4に次いで大きい。
I A 8	182	40	不明	108	52	—	0	2	0	0	1			三重圈。淡灰色を呈し、須恵質。瓦当径はI A 5に近いが、第3圈は大きい。
I A 9	153	34	141	88	39	—	2	0	0	0		1		三重圈。淡灰色を呈し、須恵質。胴部は外反する。
I B 1	167	26	不明	不明	42	—	3	1	0	0				三重圈。中央に珠点を有する。軟質・硬質がある。中央珠点は極めて低いか、ほとんど残存しない。外縁は丸みを帯びる。
I C 1	164	44	不明	不明	57	28	0	2	0	0				四重圈。橙褐色を呈する。圈縁は扁平で、太い。
軒瓦五 型式名	法 量 mm						出土点数				佛寺 尼寺	八野	特徴など	
	瓦当横幅	瓦当縦幅	第1圈縦幅	第2圈縦幅	右圈幅	左圈幅	政庁	長塚	南野	西院				
I A 1	267	32	20	4	4	4	14	5						二重圈。直縁額。色調は軒瓦I A 1に似て、橙褐色を呈するものが多い。彫りが深く、圈縁の断面は三角形。凹面と瓦当面の角度が大きい。
I A 2	343	46	28	7	6	6	41	9		1	1	2		二重圈。曲縁額。灰色・暗灰色を呈し、須恵質のものが多い。脇外縁が削られている例がある。
I A 3	330	47	28	4	3	3	3	8						二重圈。曲縁額だが、角度が緩い。淡黄灰色で、軟質。文様は丸みを帯びる。
I A 4	275	32	19	4	4	4	6	13	2					二重圈。直縁額と曲縁額のものがある。最も小型。淡灰色を呈し、須恵質。文様の断面は矩形を呈する。
I A 5	282	32	19	4	4	4	5	0						二重圈。直縁額。淡黄灰色を呈し、軟質のものが多い。I A 4と類似する。I A 4より圈幅が狭い。中央は直線的で高縁がやや屈曲する。
I A 6	348	48	31	6	7	5	0	11						二重圈。曲縁額。淡黄灰色を呈し、軟質のものが多い。最も厚い。第2圈は第1圈より鋭角で、相似形とならない。
II A 1	270	44	23	16	2	2	9	0						唐草文。平城宮6719 Aと同范。直縁額。焼成・色調はI A 1に似る。

※外縁は外面から中央に向かって数え、内法を計測。

# Ise Kokufu Site –Preliminary Report No.4–

## Contents

ChapterI Introduction	1	ChapterIII Conclusion	4
ChapterII Features and artifacts	2		

## Figures

1. Plan of Nagatuka area buildings	5	3. Types of round eaves tiles	7
2. Grid plan of Ise Kokufu	6	4. Types of flat eaves tiles	8

## Tables

1. Seat and area of excavation		4. Types of eaves tile	9
2. Structural features		5. Abstract	32
3. Excavation projects	1		

## Plates

1. Location of site around of Ise Kokufu Site	11	10. Plan of moats(SD129 and SD130) / Section of moats(SD129 and SD130)	23
2. Location of excavation area	12	11. Artifacts from 6AHD	24
3. Location of excavation area	13	12. Stamped tiles	25
4. Features of 6AHD	15	13. Stamped tiles	26
5. Features of 6AHD-A / Plan and section of moats (SD117 and SD118) / Roof tiles found at SD118	17	14. Stampde tiles / Round tile from 6AEB-B	27
6. Features of 6AHD-D-2 / Section of moat(SD121) / Plan of pit(SK119) / Section of pits(SK119 and SK124)	18	15. Flat tile from 6AEB-A and 6AEB-B	28
7. Features of 6AHD-C and D-1 / Section of moats (SD117, SD118, SD121, SD122 and SD123) and pit(SK127) / Section of 6AHD-C northern wall	19	16. View of provincial government center area / Moat(SD117) / Moat(SD118) / Artifacts found at SD117 / Moat(SD117) / Roof tiles found at SD118 / Section of moat(SD117) / Pit(SK119)	29
8. Features of 6AEB-A and 6AEB-B	21	17. Aerial view of 6AHD-D-1 / Aerial view of 6AHD-D-2 / Section of moat(SD121) / Section of moat(SD123) / Plan of Moats(SD129 and SD130) / Section of moat(SD129) / Conference of supervisors / Public site viewing	30
9. Plan of building(SB131) / Section of moat around building(SB131)	22	18. Artifacts	31

## Colour Plates

1. Aerial view of 6AHD-C and 6AHD-D-1 / Aerial view of 6AHD-C and 6AHD-D-1
2. Aerial view of 6AEB-A / Aerial view of 6AEB-B

## Summary

This report summarizes the excavation of Ise Kokufu site, also called Choja-yasiki site, in the 2001 Fiscal year. This site is located at the left terrace of the Anraku River and annexed to Hirose-cho, Suzuka City, Mie Prefecture, Japan. It has been excavated since the 1992 fiscal year by the staff of the Suzuka City Board of Education and they found the provincial government center (*kokucho* 国庁) and the other governmental offices (*zoshi* 曹司) in the Nara period. In result, Ise kokufu site was designated the national historic site in March 19, 2002. In the 13th investigation, two moats were discovered. These moats are considered both gutters on the earthen wall around buildings which were discovered at the 8th and the 10th investigations. And there is a space of 12 meters in width in the presumed earthen wall. It is thought that there was a gateway there. In the 14th investigation, a similar two moats which are considered both gutters on the earthen wall were discovered. And the moat which had been dug in surrounding in the basement of building was discovered.



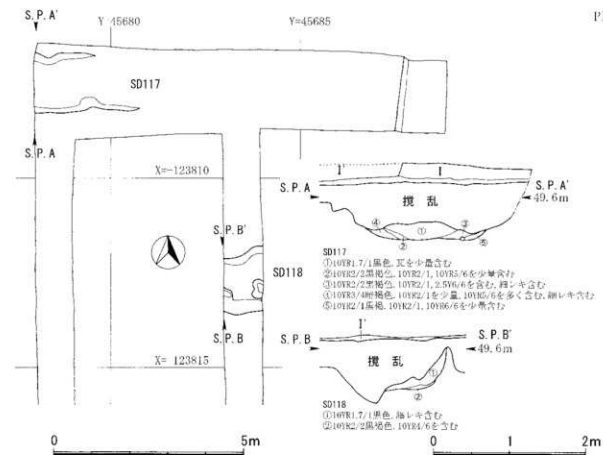
1. 伊勢国府跡 (長春堂敷遺跡)
2. 観音冲遺跡
3. 指定跡南側跡
4. 切山瓦窯跡
5. 古殿遺跡
6. 大鼻遺跡
7. 八野遺跡・八野瓦窯跡
8. 国府 A 遺跡
9. 三宅神社遺跡
10. 天王山西遺跡
11. 津真平遺跡
12. 田田遺跡
13. 川原井瓦窯跡
14. 山の原遺跡
15. 山辺瓦窯跡
16. 須賀遺跡
17. 天王遺跡
18. 伊勢国分寺跡 (推定僧寺跡)
19. 狐塚遺跡 (河曲郡衙跡)
20. 国分遺跡 (推定尼寺跡)
21. 木田坂上遺跡
22. 寺山遺跡

周辺の遺跡 (1 : 100,000)

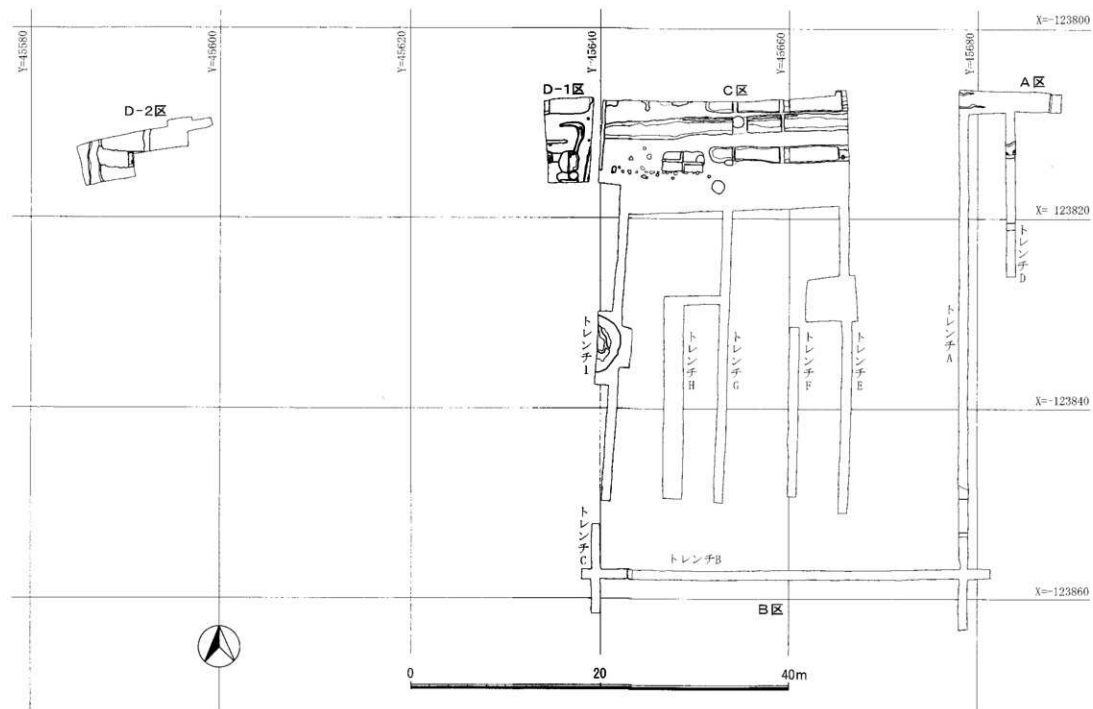




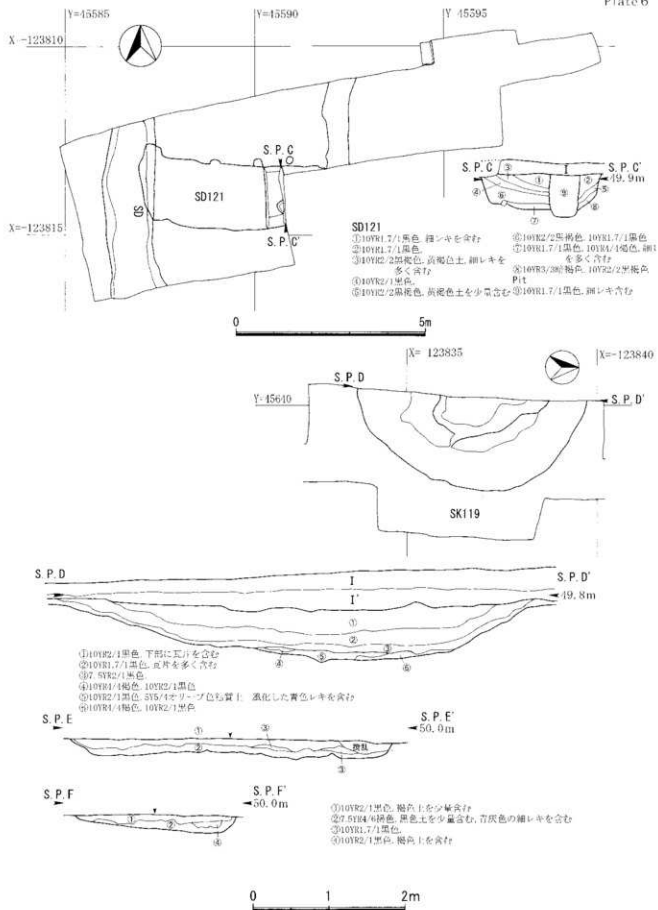
調査区位置図(1:1,000)



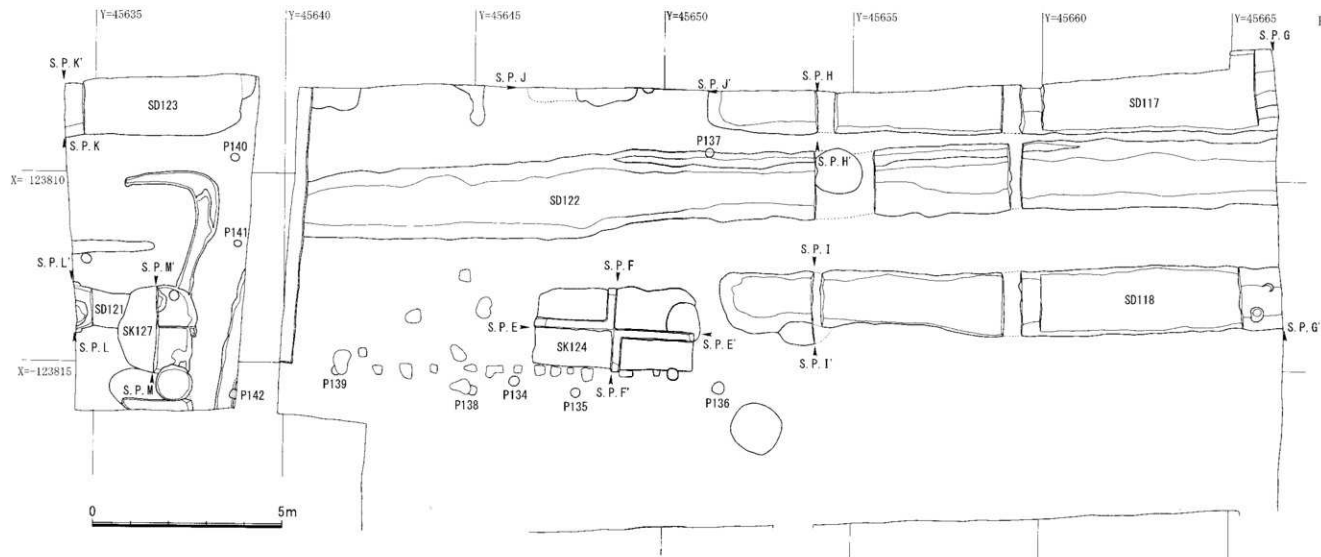
6AHD-A区平面図(1:100) 溝SD117-SD118断面図(1:50) 6AHD-C区SD118瓦出土状況(1:20)



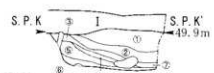
6AHD区遺構配置図(1:400)



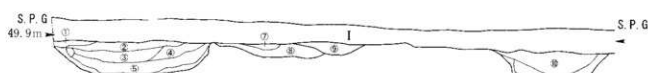
6AHD-D-2区平面図(1:100) 溝SD121断面図(1:50) 土坑SK119平面図(1:100) 土坑SK119-SK124断面図(1:50)



- SD121**
- ①10YR3/6褐色, 10YR1.7/1黒色
  - ②10YR1.7/1黒色, 細レキを少量含む
  - ③10YR2/2黒褐色
  - ④10YR1.7/1黒色, 黒褐色土, 黄褐色土を含む



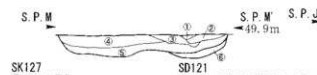
- SD123**
- ①10YR2/1灰色, 二灰土のレキ・瓦片を多く含む
  - ②10YR2/2黒褐色, 細レキを含む
  - ③10YR2/2黒褐色, 褐色土を含む
  - ④10YR1.7/1黒色, 黄褐色土を含む
  - ⑤10YR1.7/1黒色, 黄褐色土, 細レキを含む
  - ⑥10YR2/2黒褐色, 灰褐色土を含む
  - ⑦10YR2/2黒褐色, 10YR4/4褐色, 細レキを含む



- SD117**
- ①5YR1.7/1灰色, 黄褐色土を含む
  - ②5YR1.7/1灰色, 粗
  - ③5YR1.7/1灰色
  - ④10YR3/1黒褐色, 細レキを多く含む
  - ⑤5YR1.7/1灰色
  - ⑥5YR1.2/2オリーブ黒色, 2.5Y5/4黄褐色

- SD122**
- ⑦5Y2/1灰色
  - ⑧5Y2/1灰色, 2.5Y5/4黄褐色
  - ⑨2.5Y2/1灰色, 黄褐色土少量含む

- SD118**
- ⑩5YR1.7/1灰色, 川レキを含む
  - ⑪5YR1.7/1灰色, 細レキを含む
  - ⑫5YR1.7/1灰色, 黄褐色土を含む



- SK127**
- ①10YR2/1黒色
  - ②10YR1.7/1黒色, 細レキを少量含む
  - ③10YR4/6褐色, 10YR2/2黒褐色
  - ④10YR1.7/1黒色, 細レキを少量含む
  - ⑤10YR2/1灰色, 黄褐色土を含む
  - ⑥10YR2/1灰色, 黄褐色土を含む
  - ⑦10YR2/2黒褐色, 細レキを含む



- SD121**
- ⑧10YR2/2黒褐色, 黄褐色土を含む
  - ①10YR1.7/1黒色, 細レキを含む
  - ②10YR1.7/1黒色, 10YR4/4褐色
  - ③10YR1.7/1黒色, 10YR1/1褐色
  - ④10YR1.7/1黒色, 褐色土を少量含む
  - ⑤10YR2/1黒色, 10YR3/4褐色, 10YR1/6褐色
  - ⑥10YR2/1黒色, 細レキを含む



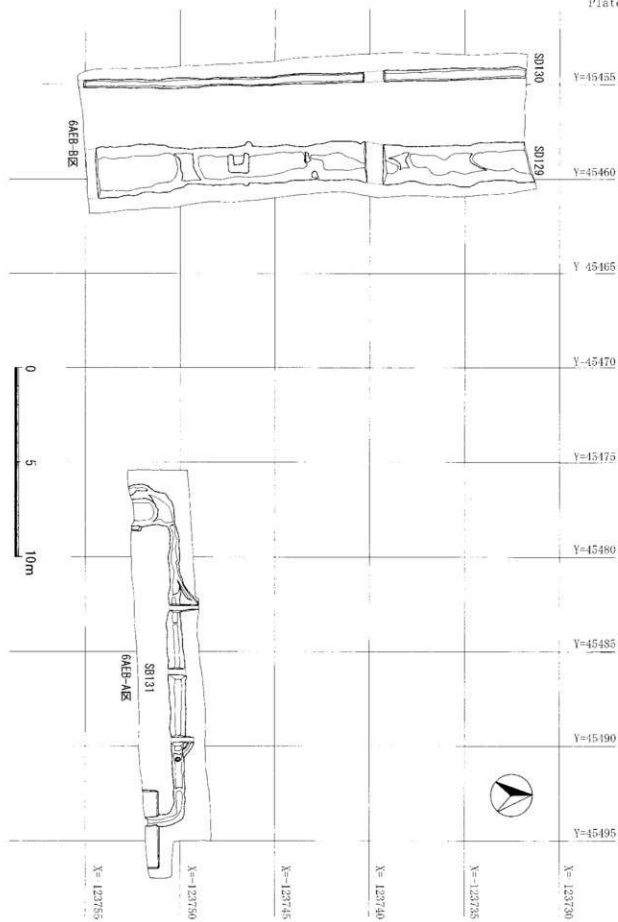
- SD117**
- ①10YR2/2黒褐色, 粗砂を多く含む
  - ②10YR2/2黒褐色, 粗砂を含む; F層に瓦片・川レキを多く含む
  - ③10YR1.7/1黒色
  - ④10YR3/2黒褐色, 黄褐色土を含む
  - ⑤10YR4/2灰黒褐色



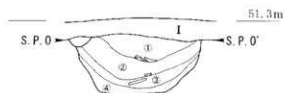
- SD118**
- ①10YR3/3暗褐色, 丸レキを含む
  - ②7.5YR4/4褐色, 下面に瓦片が埋蔵する
  - ③10YR2/1黒色, 黄褐色土を含む
  - ④10YR1.7/1黒色, 黄褐色土を多く含む
  - ⑤10YR1.7/1黒色
  - ⑥10YR2/2黒褐色, 砂・細レキを少量含む
  - ⑦10Y2/1灰色, 黄褐色土を含む
  - ⑧10YR1.7/1黒色, 灰褐色土を含む
  - ⑨10YR3/1黄褐色



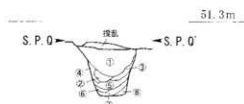
6AHD-C-D-1区平面図(1:100) 溝SD117-SD118-SD121-SD122-SD123, 土坑SK127, C区北壁断面図(1:50)



6AEB区遺構配置図(1:200)



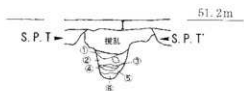
- ①10VR1.7/1黒色、瓦片・レンキを含む  
 ②10VR1.7/1黒色、瓦片を含む  
 ③10VR1.7/1黒色  
 ④10VR2/1黒色、10VR1/6褐色



- ①10VR1.7/1黒色、瓦片、レンキを含む  
 ②7.5VR2/2黒褐色、瓦片を含む  
 ③10VR2/2黒褐色  
 ④10VR2/2黒褐色、10VR1/6  
 ⑤10VR2/2黒褐色、黒土が混ざり、砂レンキを含む  
 ⑥10VR4/4褐色粘質土、細レンキを含む  
 ⑦10VR2/3黒褐色、黄褐色土を含む  
 ⑧10VR2/3黒褐色、黄褐色土を含む



- ①10VR1.7/1黒色  
 ②10VR2/3黒褐色、10VR1/6褐色  
 ③10VR2/1黒色、黄褐色土を少量含む  
 ④10VR2/1黒色、黄褐色土を少量含む  
 ⑤10VR2/2黒褐色  
 ⑥10VR2/3黒褐色



- ①10VR2/1黒色、黄褐色土を少量含む  
 ②10VR2/3黒褐色土、黄褐色土を多く含む  
 ③10VR2/1黒色、黄褐色土を少量含む  
 ④10VR1.7/1黒色  
 ⑤10VR2/2黒褐色、黄褐色土を少量含む  
 ⑥10VR2/1黒色、10VR1/6褐色

0 1 2m

Y=45475

Y=45480

Y=45485

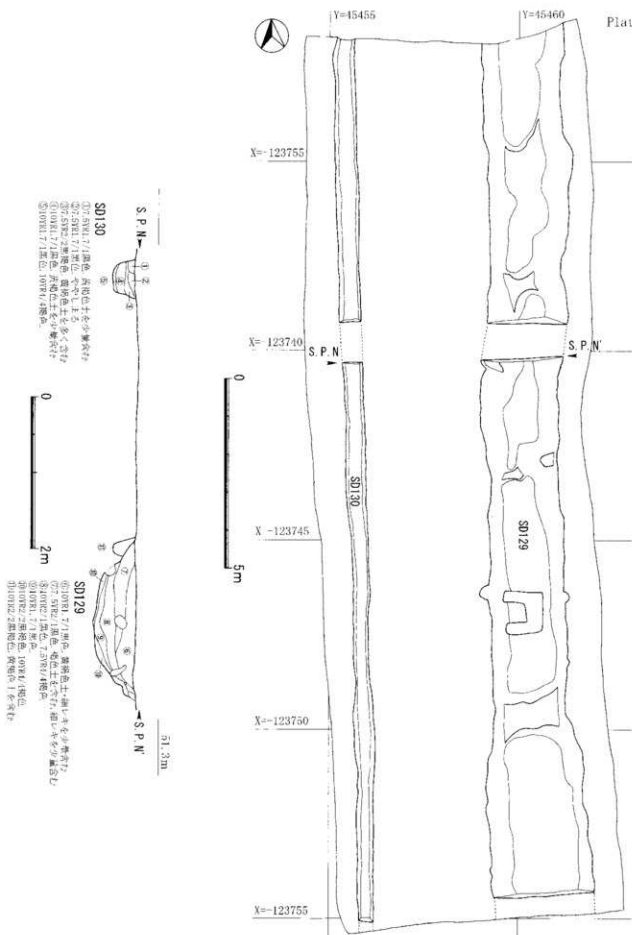
Y=45490

Y=45495

0  
5m

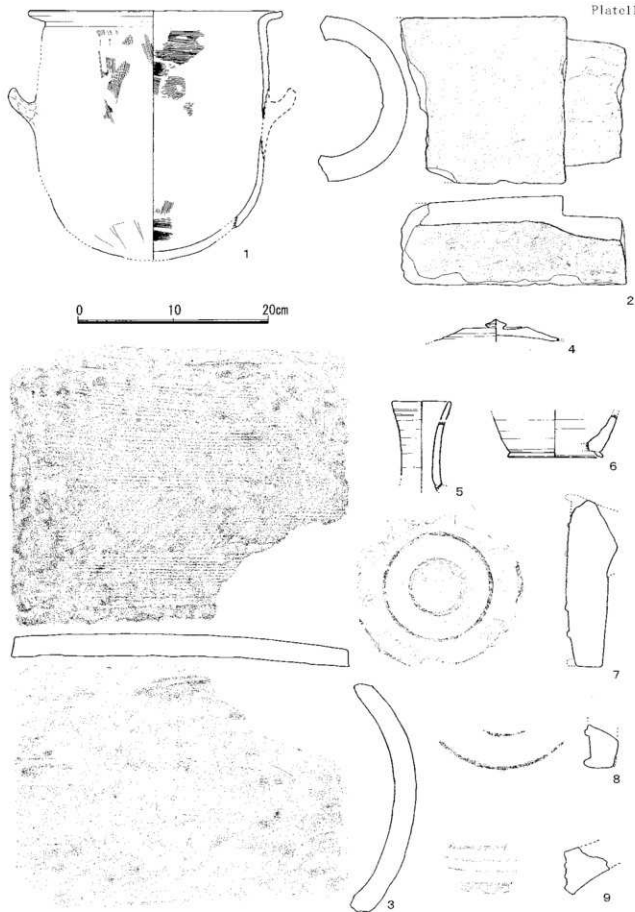
X=123750

6AEB-A区平面図(1:100) 東溝、西溝、北溝断面図(1:50)

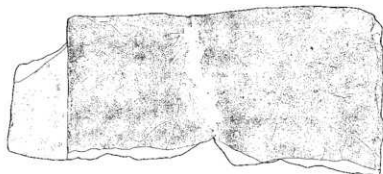
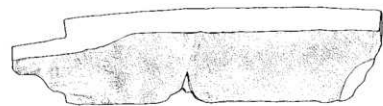
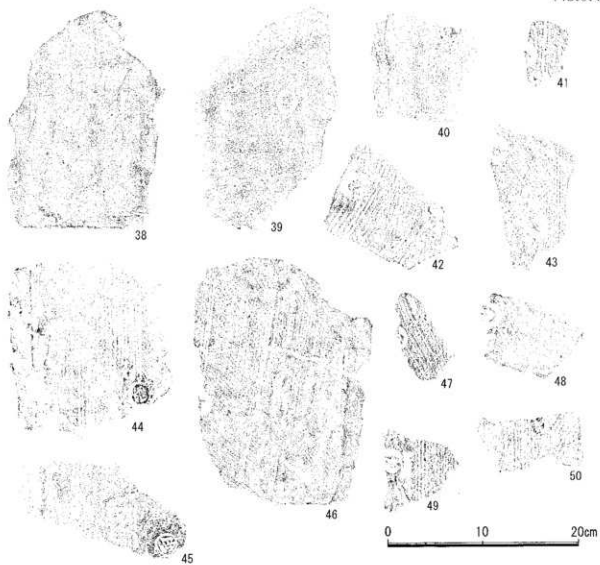


6AEB-B区平面图(1:100) 溝SD129-SD130断面图(1:50)





6AH区出土遺物(1:4)



出土文字瓦(1:4) 6AEB-A区出土丸瓦(1:4)

51



52

0 10 20cm

6AEB-A区出土平瓦(1:4)



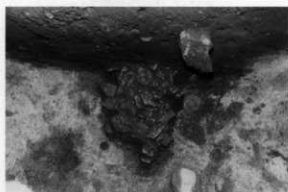
政庁 (北西から)



6AHD-A 区 SD117 (南東から)



6AHD-A 区 SD118 (北から)



6AHD-C 区 SD118 土師器・竈出土状況 (西から)



6AHD-C 区 SD117 サブトレンチ断面 (東から)



6AHD-C 区 SK119 (東から)



6AHD-C 区 SD117 (北東から)



6AHD-C 区 SD118 瓦出土状況 (東から)



6AHD-D-1区 (南西から)



6AHD-D-2区 (西から)



6AHD-D-1区 SD121 断面 (東から)



6AHD-D-1区 SD123 断面 (東から)



6AEB-B区検出状況 (北から)



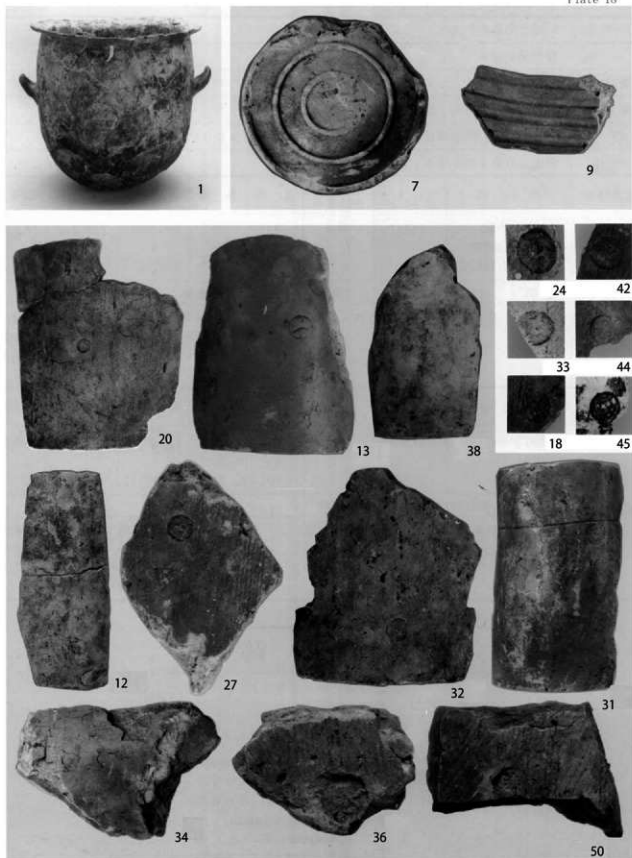
6AEB-B区 SD129 断面 (南から)



指導委員会



現地説明会



出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	いせこくふあと4							
書名	伊勢国府跡4							
編著者名	吉田真由美							
編集機関	鈴鹿市教育委員会 鈴鹿市考古博物館							
所在地	〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224番地 TEL0593(74)1994							
発行年月日	西暦2002年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長者屋敷	広瀬町字中起 1240番3, 1237番 1240番1-2, 1421番	24207	306	34° 52′ 58″	136° 30′ 00″	20010920 }	714.2㎡	学術調査
種 別	上な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
官衙	奈良・平安	溝・土坑・足場穴		軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・土師器・須恵器・山茶碗		第13次調査。伊勢国府跡。8・10次調査で確認された建物群を囲む区画施設に伴う溝と南門。		
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長者屋敷	広瀬町字中土居 1282番1	24207	306	34° 53′ 00″	136° 29′ 52″	20020106 }	246.0㎡	調査
種 別	上な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
官衙	奈良・平安	瓦葺礎石建物・溝		丸瓦・平瓦・文字瓦		第14次調査。伊勢国府跡。区画施設に伴う溝と区画内に建てられた瓦葺礎石建物の外周溝。		

## 伊 勢 国 府 跡 4

発 行 日 2002年3月31日  
 編 集 ・ 発 行 鈴鹿市教育委員会  
 鈴鹿市考古博物館  
 〒513-0013  
 三重県鈴鹿市国分町224番地  
 TEL0593(74)1994  
 FAX0593(74)0986  
 E-mail: kokohakubutsukan  
 @city.suzuka.mie.jp  
 URL: http://www.edu.city.suzuka.  
 mie.jp/museum

印 刷 早川印刷株式会社

# Ise kokuhu Site

Preliminary Report No.4

March, 2002

Suzuka City Board of Education Mie Pref., Japan